

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300591		
法人名	有限会社後藤企画		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	大分県由布市挾間町古野186番地1		
自己評価作成日	令和3年2月18日	評価結果市町村受理日	令和3年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search&list_list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府老番館 1F
訪問調査日	令和3年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設ではあるが、利用者それぞれの嗜好に添えるような対応に心掛けている。また身体能力を一日でも長く維持する為に今できる事を最大限楽しく行っている。出来るだけ施設内にとどまらず季節を感じられるような庭造りにこころがけている。そして利用者・職員が一緒になって過ごす時間を大切にしている。また、感染症予防のため多人数での外出は控えているが、社会から孤立せぬように個々でのドライブにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には小学校・大学病院・コンビニ等生活する上では欠かせない社会資源が身近にある場所に「グループホームやすらぎ」があり、9名定員の施設です。職員は理念を基に利用者とともに支え合いながら支援に繋げ、生活リズムに合わせて趣味や得意なことをレクに取り入れ、認知症の進行を予防できるよう努力をしています。高齢化・重度化する中で医療機関と連携しながら人としての尊厳や権利を損なわず今までと変わりなく過ごせるよう支援を行っています。コロナ禍の中、面会を制限されている家族にとって不安や心配がつのる中、担当職員を中心に健康面や日常の様子等定期的な手紙や「やすらぎ便り」電話連絡での詳細な報告は、安心信頼に繋がっています。利用者は外出が困難な今、庭に植えられた花々で四季を感じ気分転換を図っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、管理者と職員でその日の理念をひとつ取り上げ、共有・実践に向けて取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた6項目の理念を、毎日一項目を特に意識し、支援にあたっています。「気付き」を大切に安心と尊厳のある支援を提供しており、月1回のミーティングで理念の実践を振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際は挨拶・会話を近所の方と楽しむこともあるが、わずかな利用者でありほとんど交流できていない。	管理者は積極的に地域との交流を働きかけていますが、コロナ禍により利用者との直接交流は控えています。運営推進会議で地域代表との情報交換が主で双方の関係構築に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつではあるが、地域の人々に認知症の人の理解が得られている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議であがった様々な意見・要望を職員で共有し今後活かしている。	地域代表・民生委員・行政・地域包括支援センター等、4～5名のメンバーで2ヶ月毎に運営推進会議を開催しています。そこで出された意見を運営に反映させています。職員には議事録を回覧し共有に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者に参加してもらうことで施設の取り組みを周知してもらい、協力関係を築いている。	行政とは、日頃から運営上の相談ができており、指導を頂いています。今年度は行政主催の研修等はズームでの参加となっており、メール・FAX・電話で情報交換を行っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度の身体拘束委員会を開いている。その中で今伝える必要性の高い内容を全職員のミーティングの場で検証している。	身体拘束廃止委員会を立ち上げ、月1回、身体拘束廃止・虐待防止に向け話し合っています。年2回、ビデオ・DVDを使い研修を行う中で、スピーチロックについて、事例検討を行い職員間で注意し合えるよう意識の向上に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターなど貼り意識付けをしている。また、管理者や職員も相互で注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は制度について学ぶ機会を持っているが、スタッフは自ら情報を得よう心がけている。活用は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、必ず契約書と重要事項説明書をお互い見ながら説明をし、不明な点を明確にしておくとともに、契約後も不具合があれば電話や面会時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場や面会の際に意見、要望を伺いなるべく早く反映できるように努めている。	利用者の訴えを傾聴し、家族の意見・要望を伺いながら運営に反映させています。コロナ禍で面会は自粛していましたが感染対策を行い、少しずつ家族との面会を実施しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングで意見を聞く機会を持つようにしている。また、職員用の意見箱を常に設置し無記名で意見や提案を受け付けている。	毎月ミーティングで職員の意見、提案を聞き、日頃も管理者に直接話せる環境を作っています。管理者は職員の知識や仕事・介護への意識を少しずつ深め勉強会・研修等で意見交換を行い質の向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設設備や業務内容、職員配置など不具合があった場合には、出来るだけ早く対応するようにしている。管理者も職員の業務や悩みの相談にのり働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、インターネット環境を整備することで、認知症ケアの講習動画などを視聴出来るようにして日々の勤務に活用できるようにしている。研修の情報は掲示板にはり希望すれば参加も可能である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染拡大により機会は減ったが、近隣施設との交流に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動を注意深く観察し会話その他コミュニケーションや訴えを聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接会って話す機会を数回持ち、ご家族の気持ちを引き出せるようにしている。要望の結果や初期の本人の様子はこまめに連絡するようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスはまず一歩から始め、達成できる喜びの共有ができるものを必要な支援として導入するようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え合う関係を大切に「その人らしさ」を支援していこうと努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	すべての家族と関わりを持っているわけではないが、毎月の施設便りの中で利用者の近況を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方には今の症状を分かり易く伝え、面会や外出がスムーズにできるように努めている。	知人・友人との面会は行えていませんが、家族を通し「やすらぎ便り」で利用者の近況報告を伝えて頂いたり、電話で知人と話す方もいます。感染予防を行い、馴染みの方の面会も行えるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度は様々であるが、レクリエーションなどを通して利用者同士が関わりあうことでそれぞれの個性を伸ばし、自主性を大切に支えあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の利用終了後は、家族からの相談問い合わせがあった場合には丁寧に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食の好みや生活スタイル、干渉の度合いにおいても本人の言葉を職員で共有していくよう心掛けている。	日々の関わりの中で頻繁に声掛けすることで、何でも話せる環境作りに努め、利用者の思いや意向を把握しています。表出困難な利用者にはケアプランを参考に声掛けにて表情を見て本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書類から情報収集したのち、実際に接して情報を共有し、サービス経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に気付きも記入し、現状把握しやすいようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時々で起こる心身の変化に皆で対応し、毎月利用者ひとりひとりについてモニタリングを行っている。	利用者・家族の思いや意向と日々の支援の中で得た情報をモニタリングで検討し、介護計画を作成しています。更に定期的に目標の達成状況の確認・評価を行うことも重要であり、介護計画の見直しにも繋げるよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の様式を見直し改革した、その事によってその日の申し送りや、毎月のミーティングの際、小さな気付きも多くなり実践に活かせるようになってきた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別を重要視したサービスに心掛けており柔軟に対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームのとなりにある小学校・幼稚園の校庭では安心して安全な散歩をさせていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態を的確に伝えられるよう医療連携に心掛けていると同時に家族にも連絡をとっている。	職員は看護師経験者も多く、利用者の健康状態の些細な変化にも的確な対応ができるように心掛け、事業所のかかりつけ医とも必要に応じて緊密な連携を図り、通院や診断結果等家族に連絡して、適切な医療を受けられるよう支援しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日頃の利用者の状況を把握し気付いたことを看護師に連絡・相談し情報共有しながら医療連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院の際には、施設での生活状況を情報提供するとともに、入院中の状態を把握するために面会や病院看護職員と話をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のありかたについて、ご家族・場合によっては、本人・主治医と話し合い方針に添った支援の提供を共有している。	利用者の急変時や重度化した時など、夜間における病院や医師への連絡時に、いち早く適正な情報共有がなされ、職員全体で対応指針を共有し終末期における事業所での、最大のケアを行えるよう支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力は身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練は行っているが、地域との協力体制は築けていない。	年に2回、消防署と事業所の職員と利用者を含めた避難訓練を実施しています。火災・地震等が夜間に発生した時に、高齢の利用者が安全・迅速に避難できるよう、実践的な避難訓練を行っています。近隣の地域住民との協力体制が課題となっています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーやプライドは損なわないように、言葉かけに注意し対応しているが、全職員ではない。	利用者一人ひとりの個性や特性を尊重し、思いや心に向き合い・言葉かけにも十分な配慮を心がけ、支援を行えるようにしています。個別対応の難しさは職員全体で話し合い、気付きや違う方法などで改善出来るよう努めています。	利用者一人ひとりの特性をよく知り理解した上で、尊厳を重視した言葉かけや働きかけをしていく事で、難しい局面も少しずつ改善が見られるようになると思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の色々な場面で、本人の希望を引き出せるような声かけを職員が心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースで過ごしてしまっているが、利用者によってはその場の希望に応じた過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者によっては好みの衣類を選んだり、訪問理容の際希望を伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や片付けをすることは困難だが、食後のコーヒーなどの要望に応えることが食への楽しみへの支援になっている。	利用者の希望が有れば、行事の時やレクリエーションの時に好きな食べ物を言ってもらい、寿司や刺身など買いに行ったり、たこ焼き・お好み焼き・焼き肉等を戸外で一緒に楽しむ事もあり、食事介助の必要のない方には、利用者本人のペースでゆっくり楽しみながら、食事をして頂いています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が摂取不足になりがちな方には、好みの味やゼリー・かき氷など様々な形態を工夫し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔内の歯磨きへの声かけ誘導とともに不十分な場合は、介助している。重度の利用者に対しては、こまめに保清している。また、入れ歯と歯ブラシの消毒を決めて実行している。状態に応じて歯科訪問診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握するとともに状況に応じたその人に合った対応をしている。	利用者本位の無理のない範囲で、自立支援として排泄パターンを把握した上、オムツ使用からリハビリパンツへ移行するなど、立位可能な利用者に気持ち良い排泄支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は、ヨーグルトやオリゴ糖などの食品や体を動かすレクに取り組んでいる。排便状況を排泄チェック表で日々把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者の気分で入浴できるように対応している。	たまに入浴拒否の利用者もおられますが、時間や順番を変えとか・他の事で気分転換をして頂き、気分良く入浴を楽しんで頂けるよう優しい口調でお伝えするようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休みたいときに休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を申し送るとともに症状の変化などがあたら記録し、薬の内容については掲示して確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と利用者が一緒にできることはしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて、日常的に散歩など戸外にでかけられるよう支援している。地域の人々の協力は得ていないが、交流は心掛けている。	利用者の希望で、個人的なレクリエーションのための外出も事業所の車でを行っています。かなり頻繁に戸外への外出要請もありますが、コロナ禍の現状では希望に沿えない事も多く、中には暴言などが生じる事もありますが、可能な限り出来るように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者には、所持したり自由に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・ご利用者からの希望があった場合は、その扱いは自由になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内では和室空間を設置しテレビや音楽を鑑賞でき、家庭的な雰囲気の家具やソファを配置し心地よい空間づくりを行っている。それ以外の共有空間は、清潔を保つように心がけている。	日常生活の多くの時間を過ごす、和・洋室併用のホールでは、利用者が居心地良く過ごして頂けるよう、季節ごとの花や行事の飾り付け等を壁面に飾り付け、レクリエーションの時間にはボールを使っての遊びや塗り絵などを飾って、楽しい共用空間としています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花を好きな方も多く、四季折々の花を楽しんでもらえるように庭にテーブル・椅子を配置し、お茶を飲みながら楽しんでいる。お気に入りのソファをホールに置きすごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを自由に持ち込んでいただいている。	転倒防止や動きやすさ、安全面を重視して利用者にとって居心地よく安心出来る居室になるよう、入所時に家族と充分に話し合い、使い慣れた馴染みの物をそばに置いて、自分の居室でその人らしい日々の暮らしをして頂けるよう支援しています。	居室での過ごし方は、利用者にとって大きな意味を持つ大切なプライベート空間であることを、利用者本人とよく話し合い、より良い支援に繋がる事を期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付け、部屋の表示やトイレの表示などその都度工夫して、ご利用者が見て分かるような表現や高さにしている。		